

まちづくりの将来像と基本目標

本地区では、地区の将来像を「にぎわい・安心・豊かなみどりでつくる人が主役の竹の塚」とし、「にぎわい」「安心」「みどり」「人が主役」の4つをキーワードに、まちづくりの基本目標を定めています。竹ノ塚駅周辺地区（駅周辺エリア）地区まちづくり計画では、地区の将来像の実現を目指し、基本目標を踏まえた具体的なまちづくり方針を示します。

地区の将来像

にぎわい・安心・豊かなみどり
でつくる**人が主役**の竹の塚

まちづくりの基本目標

にぎわい
のあるまち

安心
で安全なまち

みどり
が豊かなまち

人が主役
のまちづくり

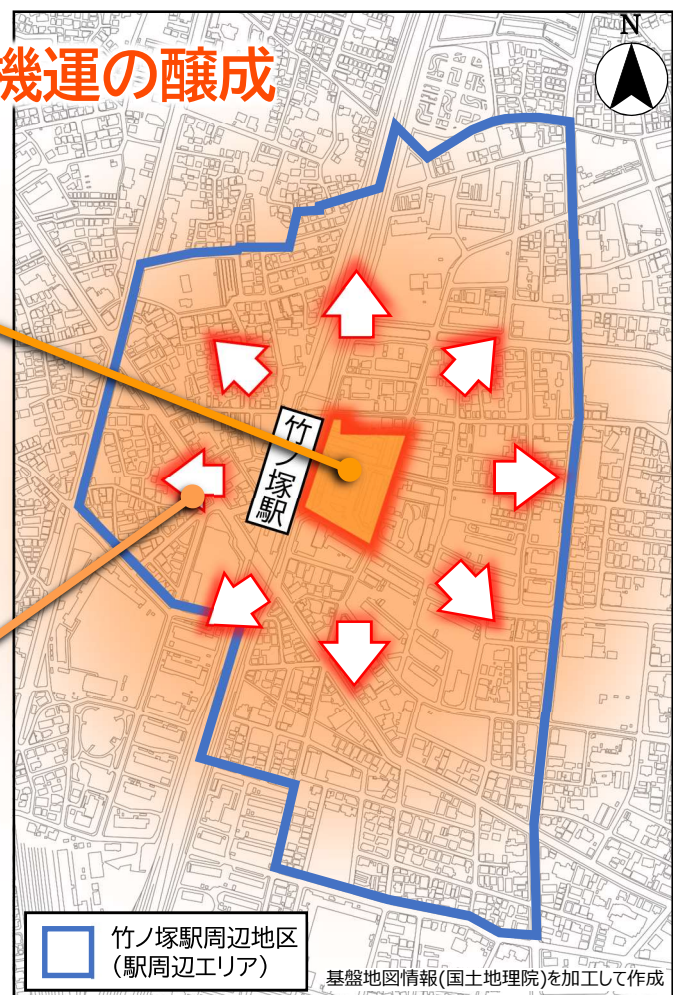
追 加

まずはまちの顔づくりとして
東口駅前からまちづくりを推進

竹ノ塚駅周辺地区へのまちづくり機運の醸成

駅東西一体のまちづくりを目指すため、東口駅前にまちの顔となる駅前拠点形成し、駅前空間を核としたまちづくりを進めていきます。

駅東西をつなぐ拠点形成を起爆剤として、竹ノ塚駅周辺地区全体へまちづくりの機運を広げていきます。



竹ノ塚駅周辺まちづくりビジョン

多様な“人”が、多様な“活動”を営み、つながるまち

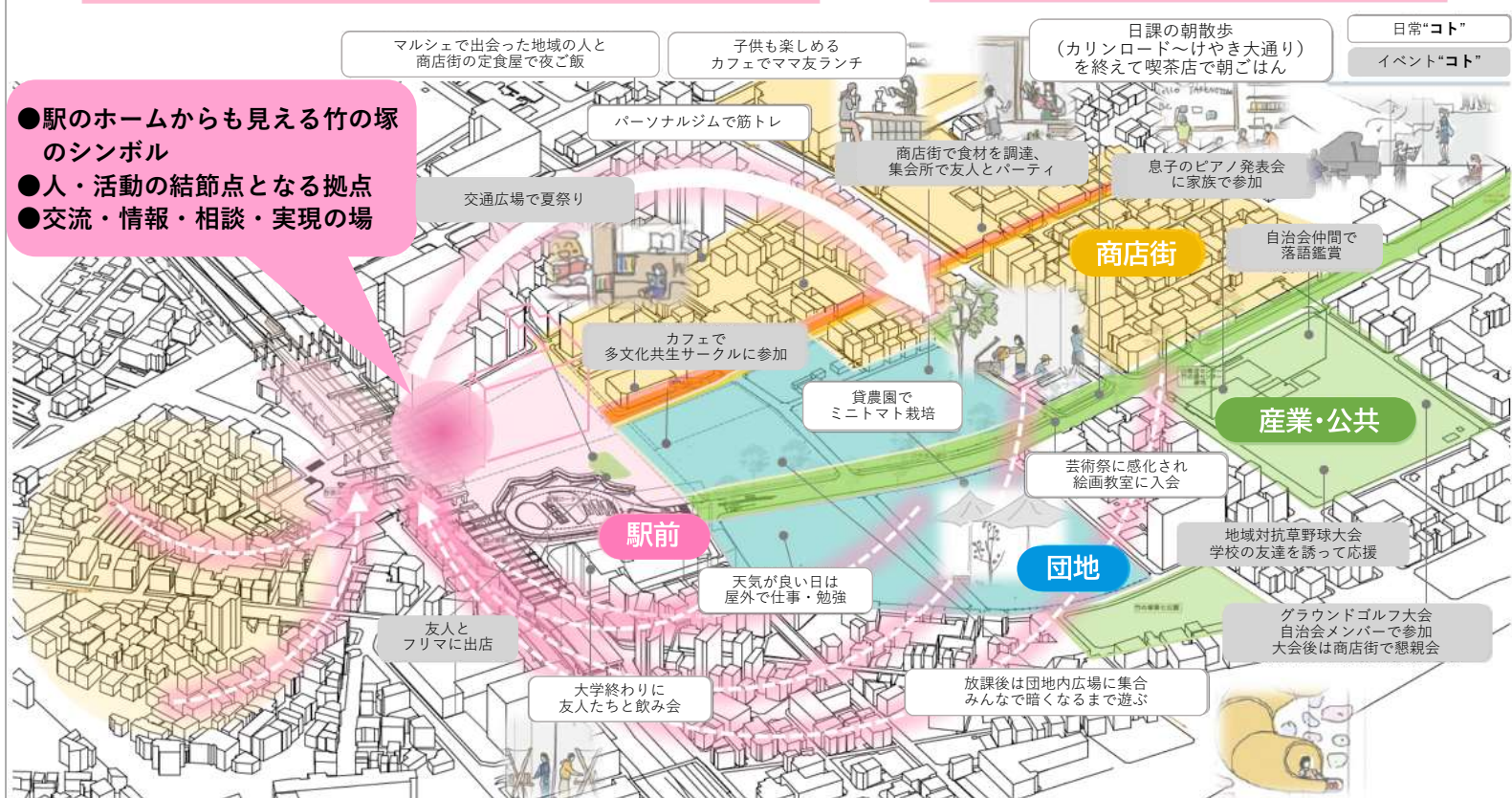
地区の将来像の実現に向けて、駅前拠点を整備し、以下の機能による新たな効果を持たせることで、竹の塚エリア全体にまちづくりの機運を広げ、多様な人・多様な活動を繋げる仕組みを構築していきます。

機能

- まちの至るところで起こっている“多様な人”による”多様な活動”の情報を駅前施設に集約し、整理のうえ発信する
- 駅前施設から活動が発展し、かつ新たに生まれることで、活動がまちへ展開する
- まちに展開された活動が広がり重なり合う
- 大小さまざまなコミュニティで活動を企画するプレイヤーが、まちで起こる活動のサポーターにもなる

効果

- 新たな関係性・アイデアの創出
- 様々な活動による相乗効果の創出
- 新たなコミュニティの形成
- まちの活動の好循環が生まれ、まちが持続的に発展



駅前(竹の塚の顔)の役割



今ある
居場所



新たな
居場所

- ・多様な人との交流の場
- ・活動発表や情報発信の場
- ・やってみたい等の相談の場
- ・やってみたいの実現の場



多くの人が認知
活動に参加し、
交流する

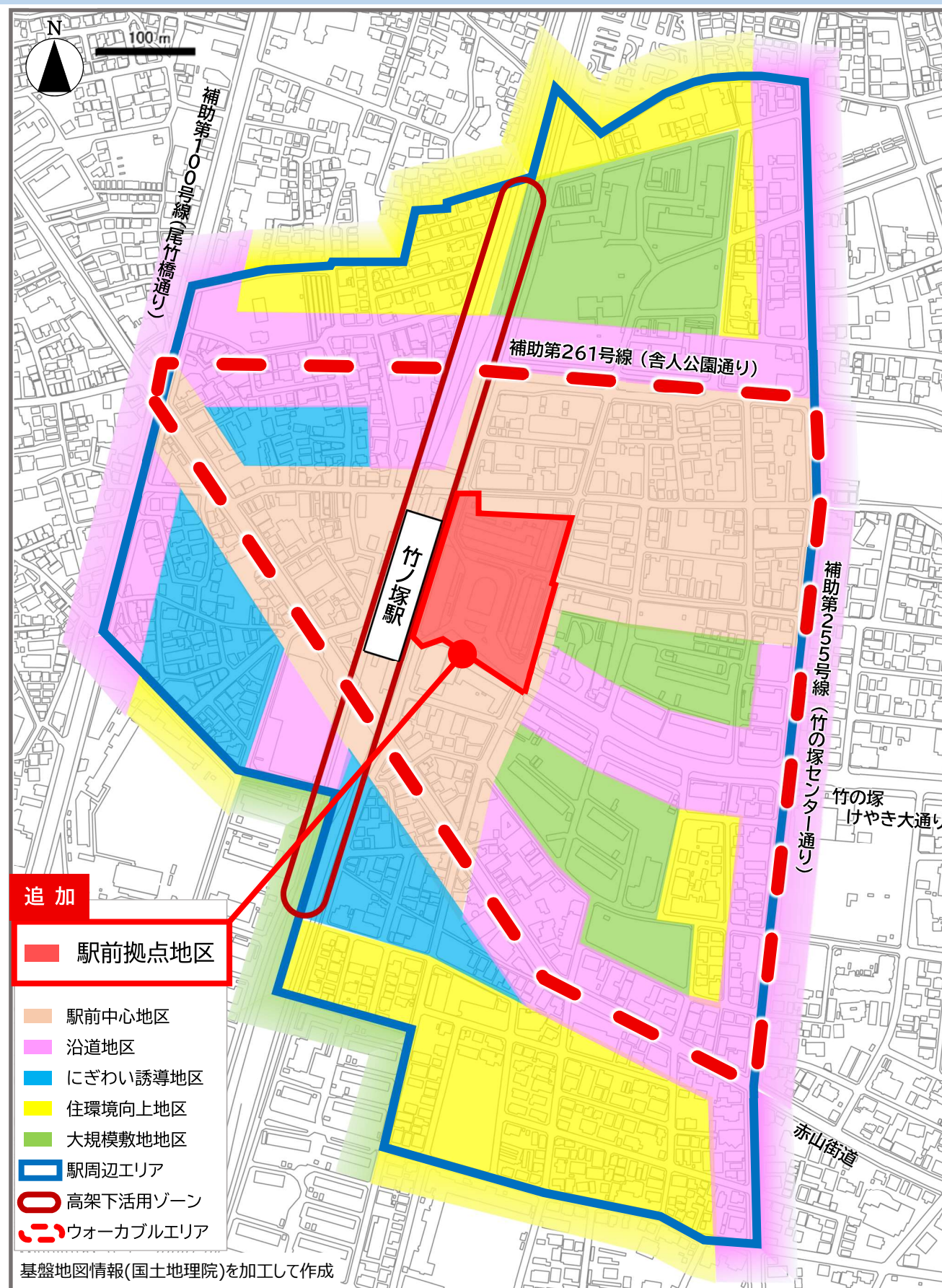
新たな活動・
プレイヤーが
生まれる



1. 土地利用の方針

基本的な考え方

地区ごとの特徴に応じた土地利用の目的や方針を定め、適切な土地利用を誘導していきます。



追加 駅前拠点地区

- 市街地再開発事業等により合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新による駅前拠点形成
- 建物の壁面の位置の制限等による快適な歩行者空間の確保
- 無電柱化の推進により、安全で快適な歩行空間の確保
- 自動運転をはじめとした先進技術の活用を見据えた可変性を持ったまちづくり

駅前中心地区

- 建物の壁面の位置や高さ等を揃えることで統一感のある街並みを形成
- 敷地の一体利用等による土地の高度利用、有効利用の推進

駅前拠点地区及び駅前中心地区の共通事項

- 区のノースゲートにふさわしい駅前空間の形成、新しい駅前広場周辺の風格ある景観形成
- 土地の適正かつ調和のとれた高度利用と「竹の塚」を印象付ける「まちの顔」づくり
- 区北部の地域拠点として、駅東西に「ウォーカブルエリア」を形成し、回遊性の向上によるにぎわいの創出
- 駅東西にわたる、快適で安全なまち並みが連続した商業空間の形成

高架下活用ゾーン

- 駅利用者と周辺住民の利便性や安全性、交流を高める高架下空間の活用
- 周辺の土地利用を踏まえ、店舗等サービス機能や公共機能の集積

沿道地区

- 幹線道路沿道にふさわしい、にぎわいあふれる連続した空間の形成
- 駅を中心としたウォーカブルエリアの形成

にぎわい誘導地区

- 駅至近の居住環境を維持しつつ、身近な商品の販売や飲食等の機能の維持・誘導による、にぎわいの向上

大規模敷地地区（UR、都営、区営団地）

- 敷地規模に適した緑あふれる空間づくりによる居住環境の向上
- ウォーカブルエリアに資する空間づくり
- 快適で住みやすいまちづくりのための生活支援施設等の誘導

ウォーカブルエリア

- 駅を中心とした幹線道路に囲まれた区域における、居心地が良く歩きたくなる歩行者環境の充実を図るエリア

住環境向上地区

- ゆったりとした緑あふれる空間づくりによる居住環境の向上